

## リーフレタス

干ばつ時には  
早めの灌水を！

タキイ熊本研究農場 喜多村 直人



### 品種選定

レタスは高温・長日でトウ立ちするため、夏秋どり栽培では晩抽性にすぐれる品種を選択することが重要です。

また、干ばつや急激な降雨など気象（天候）の影響を受け、高温期はレタスの栽培が特に不安定になりやすい時期です。今回はおすすめ品種とそんな時期の栽培ポイントをご紹介しますので、参考にしていただきたいと思います。

### 鮮赤色で耐病性にすぐれる レッドリーフ「フレアルージュ」

フレアルージュは晩抽性にすぐれるレッドリーフレタスで、葉先の鮮やか



↑フレアルージュ。草姿立性で株まとまりがよく、収穫時の箱詰め作業が容易。

### 耐暑性にすぐれる 「チマサンチュ（青葉種）」

な濃赤色と、株元の鮮緑色のコントラストが美しい品種です。草姿は立性で形状が安定し、さび症や肋部のアントシアン着色発生が少ないので、高品質なレッドリーフを安定して出荷することができま

す。手のひらサイズになった下位葉から順次収穫してください。赤葉系の「チマサンチュ（赤葉種）」とのセット販売もおすすめです。

### 栽培ポイント

#### 発芽をそろえる！

レタスの発芽適温は15～20℃で、25℃を超える高温では休眠により発芽が極端に抑制されます。特に夏場は発芽不良が発生しやすく、播種後1日半程度は直射日光の当たらない軒下などの、涼しく風通しのよい場所に置いて発芽を待ちます。発芽後は日当たりと風通しがよい、雨の当たらない場所で育苗を行います。本葉3～4枚程度の苗が定植適期です。



↑チマサンチュ（青葉種）



↑焼肉のお供に。



↑育苗期のセルトレイの様子。

### 生育をスムーズに進めるための 生理障害・病虫害対策

元肥主体で施肥を行い、適湿での整地とマルチングを行います。高温期には地温抑制効果のある白マルチの使用が有効です。定植後は灌水し活着を促します。チップバーンを予防し生育をスムーズに進めるため、干ばつ時には早めの灌水を心掛けてください。高温期には斑点細菌病や軟腐病などの細菌性病害、オオタバコガをはじめとする鱗翅目害虫（ガやチョウの仲間）の発生がしばしば問題になります。諸病害への対策も兼ねて、生育初期から登録農薬によって早期防除を行うことが大切です。風雨で葉が傷んだ場合も速やかに防除を行い、病害の進行を予防します。



↑白マルチで地温を抑制。